

# 平成29年12月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年10月31日

上場会社名 日本フェンオール株式会社  
 コード番号 6870 URL <http://www.fenwal.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 管理統括部長  
 四半期報告書提出予定日 平成29年11月2日

上場取引所 東  
 (氏名) 田原 仁志  
 (氏名) 中野 誉将  
 TEL 03-3237-3561

配当支払開始予定日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成29年12月期第3四半期の連結業績(平成29年1月1日～平成29年9月30日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年12月期第3四半期	10,434	15.6	954	15.3	1,006	10.4	713	8.3
28年12月期第3四半期	12,358	16.2	1,126	0.2	1,123	3.6	778	1.5

(注) 包括利益 29年12月期第3四半期 983百万円 (182.1%) 28年12月期第3四半期 348百万円 (55.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年12月期第3四半期	121.09	
28年12月期第3四半期	132.08	

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年12月期第3四半期	17,099	10,988	64.3	1,864.80
28年12月期	16,368	10,311	63.0	1,749.95

(参考) 自己資本 29年12月期第3四半期 10,988百万円 28年12月期 10,311百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年12月期		0.00		52.00	52.00
29年12月期		0.00			
29年12月期(予想)				52.00	52.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成29年12月期の連結業績予想(平成29年1月1日～平成29年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	15,864	4.2	1,529	1.8	1,570	1.3	1,111	3.6	188.71

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更         | : 無 |
| 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年12月期3Q	5,893,000 株	28年12月期	5,893,000 株
期末自己株式数	29年12月期3Q	332 株	28年12月期	276 株
期中平均株式数(四半期累計)	29年12月期3Q	5,892,684 株	28年12月期3Q	5,892,724 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(追加情報) .....	8
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における世界経済は依然として地政学リスクなど不安要素を抱えるものの、原油・資源価格も安定し、新興国・資源国の景気が回復局面に入ったほか、米国においては金融引き締め姿勢に転じて物価の安定化を図るなど景気は順調に推移いたしました。

また、日本経済におきましても、企業の賃金・価格設定スタンスはなお慎重なものにとどまる一方、順調な世界経済と緩和的な金融環境等を背景に企業収益は高水準となるなど景気は緩やかながらも回復基調で推移いたしました。

このような事業環境の下、当社グループにおきましては平成29-31年度中期3ヶ年計画の初年度にあたり「安心を創造し人と社会をつなぐ企業を目指す」をビジョンに掲げ、事業間連携の強化や人材育成推進による組織の改革等、経営基盤の強化と企業価値向上を図ってまいりました。また、長野工場におけるPWBA部門の生産量が大幅に落ち込む中、将来に向かって安定した経営基盤を構築するため希望退職を実施したほか、来期に向けて新たな生産管理システムの導入準備を進めるなど、更なる抜本的な構造改革に取り組んでまいりました。

以上の結果、受注高は11,413百万円(前年同四半期比4.7%減)、売上高は10,434百万円(前年同四半期比15.6%減)となりました。

利益面におきましては、売上総利益の減少等により営業利益は954百万円(前年同四半期比15.3%減)、経常利益は1,006百万円(前年同四半期比10.4%減)となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益につきましても、投資有価証券売却益を計上したものの、特別退職金の計上、経常利益の減少が影響し713百万円(前年同四半期比8.3%減)となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

#### SSP (Safety Security Protection) 部門

当該部門を取り巻く事業環境につきましては、企業収益の改善や半導体需要の好調さから設備投資は増加となり、また、建築工事についても首都圏の再開発事業や公共事業等を背景に堅調に推移いたしました。

このような環境の下、電力等基幹産業向け防災設備の受注環境が順調に推移したほか、企業の安全に対する意識が高まっていることで産業用検知器や特殊防災設備の需要は増加となりました。しかしながら、一般物件の消火設備工事については厳しい価格競争が続いており若干の減少となりました。

以上の結果、受注高は4,347百万円(前年同四半期比29.3%増)、売上高は3,533百万円(前年同四半期比5.1%減)となりました。

#### サーマル部門

半導体業界は、次世代半導体への投資やIoT技術の普及等により活況を呈しており、半導体製造装置の需要についても順調に推移いたしました。当該部門におきましては、依然として厳しい価格競争が続くセンサーについては出荷が減少となったものの、アジア向け熱板の出荷が増加したほか、熱制御技術を応用した加熱装置の出荷が増加し全体では前年同四半期を上回りました。

以上の結果、受注高は993百万円(前年同四半期比8.3%増)、売上高は913百万円(前年同四半期比6.0%増)となりました。

#### メディカル部門

当該部門における主力製品となる海外向け人工腎臓透析装置に関しましては出荷価格引き下げ等が奏功し人工腎臓透析装置本体の出荷台数は前年同四半期を上回りました。しかしながら、販売先においては依然として厳しい環境が続いており、同要素部品の出荷については大幅な減少となりました。

以上の結果、受注高は1,171百万円(前年同四半期比7.3%増)、売上高は1,015百万円(前年同四半期比10.3%減)となりました。

#### PWBA (Printed Wiring Board Assembly) 部門

当該部門におきましては、アジア市場を中心とした、産業機器、医療機器向けプリント基板の出荷は順調に推移する一方、主要取引先である事務機器業界における複写機、プリンターの販売需要が伸び悩んでいることから当社グループ全体におけるプリント基板の出荷は大幅に減少いたしました。

以上の結果、受注高は4,901百万円(前年同四半期比25.8%減)、売上高は4,971百万円(前年同四半期比25.1%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は17,099百万円となり、前連結会計年度末16,368百万円に比べ730百万円(4.5%)増加しております。主な増加要因は「現金及び預金」1,139百万円(23.5%)、「投資有価証券」485百万円(23.9%)によるものであり、主な減少要因は「受取手形及び売掛金」641百万円(21.2%)、「完成工事未収入金」352百万円(39.9%)によるものであります。

負債合計は6,110百万円となり、前連結会計年度末6,056百万円に比べ53百万円(0.9%)増加しております。主な増加要因は「社債」284百万円(417.6%)、「短期借入金」262百万円(114.9%)、「賞与引当金」135百万円(-%)によるものであり、主な減少要因は「1年内償還予定の社債」352百万円(91.7%)、「支払手形及び買掛金」347百万円(12.3%)によるものであります。

純資産合計は10,988百万円となり、前連結会計年度末10,311百万円に比べ676百万円(6.6%)増加しております。主な増加要因は親会社株主に帰属する四半期純利益713百万円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年12月期の業績予想につきましては、当第3四半期における業績が概ね計画どおり推移しているため、現時点では平成29年2月10日に公表いたしました連結業績予想に変更はありません。しかし、今後の業績推移に応じて修正の必要性が生じた場合は、速やかに公表いたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,851,002	5,990,428
受取手形及び売掛金	3,030,864	2,389,649
電子記録債権	798,648	1,051,636
完成工事未収入金	883,683	530,973
製品	425,588	264,530
仕掛品	174,112	267,619
原材料	1,534,565	1,364,071
未成工事支出金	529,058	660,918
その他	87,541	36,241
貸倒引当金	△5,317	△4,166
流動資産合計	12,309,747	12,551,903
固定資産		
有形固定資産	1,256,517	1,192,336
無形固定資産	56,075	170,151
投資その他の資産		
投資有価証券	2,033,420	2,518,922
長期預金	500,000	500,000
その他	238,892	190,649
貸倒引当金	△25,867	△24,607
投資その他の資産合計	2,746,445	3,184,964
固定資産合計	4,059,038	4,547,451
資産合計	16,368,785	17,099,355
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,817,804	2,469,842
工事未払金	515,385	463,651
短期借入金	228,139	490,184
1年内返済予定の長期借入金	100,000	100,000
1年内償還予定の社債	384,500	32,000
未払法人税等	203,936	79,446
賞与引当金	—	135,550
役員賞与引当金	—	16,500
その他	642,212	778,915
流動負債合計	4,891,978	4,566,090
固定負債		
社債	68,000	352,000
長期借入金	300,000	300,000
役員退職慰労引当金	85,141	64,975
退職給付に係る負債	442,578	406,413
資産除去債務	23,852	23,852
その他	245,269	397,375
固定負債合計	1,164,842	1,544,616
負債合計	6,056,821	6,110,707

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	996,600	996,600
資本剰余金	1,460,517	1,460,517
利益剰余金	6,786,972	7,194,102
自己株式	△212	△289
株主資本合計	9,243,876	9,650,930
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	826,863	1,169,324
為替換算調整勘定	320,209	241,333
退職給付に係る調整累計額	△78,985	△72,940
その他の包括利益累計額合計	1,068,087	1,337,717
純資産合計	10,311,964	10,988,648
負債純資産合計	16,368,785	17,099,355

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)
売上高	12,358,410	10,434,517
売上原価	9,744,734	8,014,650
売上総利益	2,613,676	2,419,867
販売費及び一般管理費	1,487,631	1,465,825
営業利益	1,126,045	954,041
営業外収益		
受取利息	2,608	9,140
受取配当金	25,120	32,579
受取保険金	—	9,600
保険解約返戻金	904	13,592
その他	2,769	2,443
営業外収益合計	31,403	67,355
営業外費用		
支払利息	10,524	8,142
社債発行費	—	3,474
為替差損	21,980	1,636
その他	1,658	1,325
営業外費用合計	34,163	14,578
経常利益	1,123,285	1,006,818
特別利益		
投資有価証券売却益	—	47,126
特別利益合計	—	47,126
特別損失		
特別退職金	—	40,693
特別損失合計	—	40,693
税金等調整前四半期純利益	1,123,285	1,013,251
法人税、住民税及び事業税	326,544	295,774
法人税等調整額	18,423	3,925
法人税等合計	344,967	299,699
四半期純利益	778,317	713,551
親会社株主に帰属する四半期純利益	778,317	713,551



(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年1月1日 至 平成28年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年1月1日 至 平成29年9月30日)
四半期純利益	778,317	713,551
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△26,968	342,461
為替換算調整勘定	△401,846	△78,875
退職給付に係る調整額	△1,036	6,045
その他の包括利益合計	△429,851	269,630
四半期包括利益	348,465	983,182
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	348,465	983,182

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年1月1日至平成28年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	S S P 部門	サーマル 部門	メディカル 部門	P W B A 部門	計		
売上高							
外部顧客への 売上高	3,725,444	862,204	1,131,854	6,638,906	12,358,410	—	12,358,410
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	3,725,444	862,204	1,131,854	6,638,906	12,358,410	—	12,358,410
セグメント利益	811,590	157,424	103,687	434,626	1,507,328	△381,283	1,126,045

(注) 1 セグメント利益の調整額△381,283千円は、全社費用であり、報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成29年1月1日至平成29年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	S S P 部門	サーマル 部門	メディカル 部門	P W B A 部門	計		
売上高							
外部顧客への 売上高	3,533,789	913,829	1,015,605	4,971,292	10,434,517	—	10,434,517
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	3,533,789	913,829	1,015,605	4,971,292	10,434,517	—	10,434,517
セグメント利益	746,411	205,382	32,533	339,781	1,324,108	△370,067	954,041

(注) 1 セグメント利益の調整額△370,067千円は、全社費用であり、報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。